

平成28年度 事業計画

大阪成蹊学園

I 大阪成蹊学園の全体方針

1. 大阪成蹊学園の概要

大阪成蹊学園は 1933 年に創立された、83 年の歴史を持つ総合学園です。現在、傘下に大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園を擁し、在籍者数約 6000 人、教職員数約 370 人、卒業生総数約 11 万人の伝統と実績のある学園です。下記の建学の精神及び行動指針に基づき、教育を展開しています。

(1) 建学の精神 「桃李不言下自成蹊」

司馬遷の『史記』に由来する故事成語で、「桃や李^{ずもも}は何も言わないが、その美しい花や実^{こみち}にひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道（蹊）ができる」という意味であり、「徳があり尊敬される人」を「桃」や「李」に譬えて賞賛した言葉です。このように人々に頼りにされ、自然に蹊ができるほど人々が集まってくるような「人間力」を備えた人を育てることを、本学園の教育目的としています。

(2) 行動指針 「『忠恕』の精神」

「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わし、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味です。建学の精神を実践するにあたっての行動指針としています。

平成 28 年度は、大阪成蹊大学にスポーツマネジメント学科、大阪成蹊短期大学に生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科、大阪成蹊女子高等学校に美術科が立ち上がるなど、学びはますます充実していきます。大阪成蹊学園を構成するすべての学校及び園において教育の一層の充実を図り、また相互に連携を深めながら学園全体で、「人間力」のある人材育成をめざしていきます。

2. 学園運営の基本方針

社会に期待され、信頼される教育機関として、学園が永続的に発展していくために、①教育の充実に向けた改革の推進、②学生・生徒・園児への指導及び支援の強化、③学生・生徒の就職支援及び進学指導の強化、④学園内連携の強化、⑤地域連携の強化、⑥入試広報の強化、⑦安定した財務体質の構築、⑧学園リスク管理の徹底を中心に、教員、職員が一丸となって取り組んでいきます。以上を平成 28 年度の学園運営の基本方針とし、実現をめざしていきます。

II 教育部門の基本方針

1. 高等教育機関

大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の各高等教育機関においては、以下の4点を平成28年度事業運営における基本方針とする。

(1) 教育の充実

各大学、短期大学においては、教育の目的を明確に定め、各学部・学科ごとに特色ある教育を展開する。

(2) 学生指導の強化

あいさつや身だしなみなどのマナー指導や、学生の修学、学生生活の充実に向けたきめ細かな学生指導を行う。

(3) 就職支援の強化

学生一人ひとりの就職希望・活動状況の把握、教職協働によるきめ細かな支援により、学生の就職希望率の更なる向上と就職内定率100%をめざす。

(4) 募集の活性化

高校訪問の強化やオープンキャンパスの充実、各大学、短期大学の特色を明確に打ち出すための広報ツールの強化により、志願者数を増加させ、入学定員を確保する。

基本方針の下、各校は以下の実施方針を掲げる。

(1) 「教育の充実」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学（相川キャンパス）

- ア 大学、短期大学全体及び、各学部・学科の3つのポリシーに基づいた教育の充実
- イ 学生に分かりやすい授業、アクティブラーニング授業の推進
- ウ PROGテストやSPIテストなど外部試験の導入による、学修成果の客観的な測定・把握と教育及び学生指導への活用
- エ 学外連携の強化による実践力や就業力、課題解決力を高める授業の充実
- オ 学生が学修成果を発揮することのできる企画の充実
- カ 高大連携の一層の推進
- キ 正課外学修を促進するためのラーニングコモンスの開設

なお、相川キャンパスでは、3つのポリシーに基づいた「大阪成蹊の『人間力教育』」を充実するため、以下の教育改革に取り組む。

- ア 「人間力教育」の基礎となる「大阪成蹊の初年次教育」プログラムの開発
- イ 「確かな専門性」を活かして「社会で実践する力」や「協働する素養」を育むための「大阪成蹊のキャリア教育」プログラムの開発
- ウ 平成29年度のカリキュラム編成、教員配置などの検証
- エ 学外連携、インターンシップの充実
- オ 正課教育の成果及び教育方法の検証

- カ 適正な成績評価の実現
- キ 学生の正課外学修を促進するための、ラーニングコモンズでの講座や企画の充実
- ク グローバル人材育成のための海外研修プログラムの充実

② びわこ成蹊スポーツ大学（びわこキャンパス）

- ア アクティブラーニングの推進による授業の充実
- イ 学習支援室の設置による正課外教育の充実
- ウ 産官学連携による実践力を高める教育の充実

(2) 「学生指導の強化」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学（相川キャンパス）

- ア 「学園ブランド力向上運動」の徹底
- イ アドバイザー教員制度、チューター制度による指導、支援の強化
- ウ 学生課、学生支援センター、留学生支援センターの連携による指導、支援の強化
- エ 学生指導、支援に関する情報共有の徹底
- オ クラブ、サークル、ボランティアなど課外活動の活性化
- カ 地域行事、学外イベントなどへの参加の促進

② びわこ成蹊スポーツ大学（びわこキャンパス）

- ア 学生の修学状況の随時把握による個別指導、支援の徹底
- イ 学生指導、支援に関する情報共有の徹底
- ウ 教育相談会の開催による保護者との情報の共有
- エ クラブ、サークル、ボランティアなど課外活動の活性化
- オ 産官学連携も含めた女性アスリート育成の強化
- カ 指定強化クラブの設定と強化
- キ クラブにおける学生指導体制の強化

(3) 「就職支援の強化」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学（相川キャンパス）

- ア 学部、学科の特色に合わせた就職支援体制の強化
- イ 学内個別セミナーの充実
- ウ 就職に生きる資格取得支援の強化、SPI テストなどの就職対策の充実
- エ インターンシップの促進

② びわこ成蹊スポーツ大学（びわこキャンパス）

- ア キャリア意識醸成に向けた年次別のガイダンスの開催

- イ 学内個別セミナーの充実
- ウ 就職希望種別の対策講座の開設
- エ 地域企業との関係強化による就職先の開拓

(4)「募集の活性化」に関する実施方針

① 大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学（相川キャンパス）

- ア 教職員による高校訪問の強化
- イ 学部、学科の特色を活かした、魅力あるオープンキャンパスの開催
- ウ ホームページなど、学校の魅力を伝える広報ツールの強化

② びわこ成蹊スポーツ大学（びわこキャンパス）

- ア 教職員による高校訪問の強化
- イ 特別講演など企画の充実した、魅力あるオープンキャンパスの開催
- ウ ホームページなど、学校の魅力を伝える広報ツールの強化

2. 大阪成蹊女子高等学校

大阪成蹊女子高等学校は女子教育に特化し、キャリア教育と人間力の育成を強固に推進しながら、これからのグローバル時代に対応できる力を育むことをめざし、以下の4点を平成28年度事業運営における基本方針とする。

(1) 教育の充実

基礎学力の向上、女子教育、キャリア教育の更なる強化、グローバル人材の育成など、教育内容の一層の充実を図る。また、日常の学習はもとより、様々な学校行事、コース行事において生徒の自主性を育む。

(2) 生徒募集の強化

平成28年度入試では、近年最高となる志願者数・入学者数の実績をあげ、過去6年間、私立女子校では府内トップの入学者数を誇っている。学科・コース別の特色を更に明確化するとともに、学園内連携をアピールしたオープンスクールを実施するなど、募集広報を一層強化することで、安定した入学者数の確保に努める。

(3) 内部進学率の向上

高大連携による授業の実施、生徒一人ひとりへのきめ細かな進路指導の強化、大学、短期大学との接続型部活動の充実などにより併設校への関心を高め、内部進学率を60%に高めることを目標とする。

(4) 国及び府からの研究指定への取組み

文部科学省のスーパーグローバルハイスクールの指定や、科学研究費補助金奨励研究の採択に向けた取組みを推進する。

3. 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

こみち幼稚園は、楽しい「遊び」を通して、幼児の心情・意欲・態度を育みながら、「強く明るく考える子ども」を育成することを教育活動の目標とし、以下の5点を平成28年度事業運営における基本方針とする。

(1) 保育活動における内容の充実

人間の本源的な生命表現である音楽、美術、スポーツを通じた「心身の健全性」の育成や、保育活動における健康、安全、人権に関する内容の充実をめざす。また、園内の環境整備と教員の育成に努める。

(2) 学園内連携の更なる強化

大学・短期大学の教員、学生との学園内連携を更に強化することで、教育内容を充実させ、ブランド力の向上をめざす。

(3) 地域連携の強化

より地域に根ざした幼稚園をめざし、近隣の教育機関での活動や、地域施設・団体との活動を通じて、園児・保護者・教職員と地域の方々との交流機会を増やす。

(4) 募集の強化

2歳児クラスの定員拡大、保護者とのコミュニケーションの強化により、安定した入園者数の確保に努める。

(5) 良質な教員確保のための仕組みづくり

教育学部、幼児教育学科などとの連携により、学園の特徴を活かした採用活動を行い、質の高い教員の早期確保をめざす。

Ⅲ 経営計画による達成目標

1. 平成29年度 学生募集

各学校とも次の募集定員を確保する。

(単位：人)

| 学校・幼稚園名 | | 定員 | 小計 |
|------------------|------------------|-------|-----|
| 大阪成蹊大学 | マネジメント学部 | 180 | 477 |
| | 芸術学部 | 177 | |
| | 教育学部 | 120 | |
| びわこ成蹊スポーツ大学 | スポーツ学部 | 360 | 370 |
| | 大学院 | 10 | |
| 大阪成蹊短期大学 | 生活デザイン学科 | 50 | 760 |
| | 調理・製菓学科 | 120 | |
| | 栄養学科 | 120 | |
| | 幼児教育学科 | 300 | |
| | 観光学科 | 90 | |
| | グローバルコミュニケーション学科 | 30 | |
| | 経営会計学科 | 50 | |
| 大阪成蹊女子高等学校 | | 340 | |
| 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園 | | 90 | |
| 学園合計 | | 2,037 | |

2. 中期経営計画

平成28年度以降の中期経営計画は次の通りとする。

(単位：百万)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 平成31年度 | | 平成32年度 | | |
|-----------------------------|-----------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|---|
| | 補正予算 | 当初予算 | 対前年比 | 中期計画 | 対前年比 | 中期計画 | 対前年比 | 中期計画 | 対前年比 | 中期計画 | 対前年比 | |
| 教育活動収支 | 学生生徒等納付金 | 5,753 | 6,143 | - | 6,496 | - | 6,613 | - | 6,617 | - | 6,635 | - |
| | 補助金 | 1,353 | 1,467 | - | 1,459 | - | 1,492 | - | 1,451 | - | 1,439 | - |
| | 雑収入ほか | 377 | 301 | - | 227 | - | 239 | - | 251 | - | 219 | - |
| | 教育活動収入合計 | 7,483 | 7,911 | - | 8,182 | - | 8,344 | - | 8,319 | - | 8,293 | - |
| | 人件費 | 4,322 | 4,789 | - | 4,768 | - | 4,861 | - | 4,902 | - | 4,867 | - |
| | 教育研究経費 | 2,038 | 2,210 | 172 | 2,334 | 124 | 2,372 | 38 | 2,398 | 26 | 2,399 | 1 |
| | 管理経費ほか | 667 | 612 | - | 609 | - | 599 | - | 598 | - | 596 | - |
| | 教育活動支出合計 | 7,027 | 7,611 | - | 7,711 | - | 7,832 | - | 7,898 | - | 7,862 | - |
| | 教育活動収支差額 | 456 | 300 | - | 471 | - | 512 | - | 421 | - | 431 | - |
| | 教育活動外収入合計 | 1 | 1 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - |
| 教育活動外支出合計 | 62 | 54 | - | 65 | - | 56 | - | 47 | - | 38 | - | |
| 教育活動外収支差額 | △61 | △53 | - | △65 | - | △56 | - | △47 | - | △38 | - | |
| 経常収支差額 | 395 | 247 | - | 406 | - | 456 | - | 374 | - | 393 | - | |
| 特別収入計 | 284 | 0 | - | 400 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | |
| 特別支出計 | 1 | 17 | - | 40 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | |
| 特別収支差額 | 283 | △17 | - | 400 | - | 0 | - | 0 | - | 0 | - | |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 678 | 230 | - | 806 | - | 456 | - | 374 | - | 393 | - | |
| 事業活動収入計 | 7,768 | 7,912 | - | 8,582 | - | 8,344 | - | 8,319 | - | 8,293 | - | |
| 事業活動支出(消費支出)計 | 7,091 | 7,682 | - | 7,776 | - | 7,888 | - | 7,945 | - | 7,900 | - | |
| 教育研究費比率(%) (教育研究経費/消費支出) | 28.74% | 28.77% | 0.2 | 30.02% | 1.26 | 30.07% | 0.06 | 30.18% | 0.11 | 30.37% | 0.19 | |

【平成28年度の主な投資計画】

相川キャンパス：西館・図書館棟エレベーターリニューアル

びわこキャンパス：フットサル競技場新設、サッカーグラウンド改装、駐車場増設
大阪成蹊女子高等学校：美術棟建設

IV. 教育部門の具体的施策

1. 大阪成蹊大学

(1) マネジメント学部

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

- (ア) 社会人基礎力や就業力の向上に向けた教育実践
- (イ) PROG テスト、SPI テストの実施と活用
- (ウ) PBL 授業やグループ学修を通じた主体性、協調性の育成

イ 専門的な力の強化

- (ア) 学科ごとに定める重点資格の合格対策支援の強化
- (イ) 学外連携授業などを通じた実践力の強化

ウ 授業方法の充実

- (ア) 全コースでの PBL 授業の実施と成果発表機会の充実
- (イ) 本学アクティブラーニングハンドブックを活用したアクティブラーニング授業の推進

エ 産官学連携の推進

- (ア) 産官学連携に基づく学修プロジェクトの充実
- (イ) 連携企業などの新規開拓

オ 教員間の連携強化、研修体制の構築

- (ア) 学部内での学生情報、学修状況の共有
- (イ) 授業見学会や勉強会を通じた授業力の向上

カ 学園内連携の強化

- (ア) 併設高校との連携授業の充実
- (イ) びわこ成蹊スポーツ大学とのスポーツマネジメント分野での連携

キ 研究の推進

- ・ 研究会の実施による共同研究の推進

ク 学部独自の施策

- ・ ラーニングコモンズの活用による正課外学修の促進

② 学生指導・学生生活支援の強化

- ア 学生の修学状況の共有の徹底及び学生への指導、支援の強化
- イ アドバイザー教員による個別指導の徹底

③ 就職率 100%達成のための支援

- ア 学生の就職希望、活動状況の共有の徹底及び学生への指導、支援の強化

イ ラーニングコモンズの活用による正課外での SPI テスト対策の充実

④ 募集対策強化と入学定員の確保

ア 高校訪問の強化

イ 高校生にとって魅力あるオープンキャンパス企画の実施

ウ 母校訪問によるオープンキャンパスへの誘引の強化

⑤ 学部独自の施策

ア ゼミ指導体制の充実及び学部内各種コンペティションの開催

イ 留学生向け日本語対策講座の開催

(2) 芸術学部

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

(ア) 社会人基礎力や就業力の向上に向けた教育実践

(イ) 国語力検定、PROG テスト、SPI テストの実施と活用

(ウ) 学生中心のイベント企画、運営による主体性と協調性の育成

イ 専門的な力の強化

(ア) グレード制による基礎造形力の強化、PC スキルの強化

(イ) プロジェクト型授業の充実による実践力の強化

ウ 授業方法の充実

・ 全授業でのアクティブラーニング授業の推進、PBL 授業の一層の充実

エ 産官学連携の推進

(ア) 産官学連携による実践的な学修の充実

(イ) インターンシップ参加者の拡大と、実施先との連携の強化

オ 教員間の連携強化と研修体制の構築

(ア) 授業見学会など授業改善に向けた取組みの促進

(イ) チームティーチングを通じての各教員の授業力の向上

カ 学園内連携の強化

(ア) 併設高校への高大連携授業の推進、高大接続教育のプログラム化

(イ) 併設高校向けオープンキャンパスでの連携企画の実施

キ 研究の推進

(ア) 教員による展示会への出品と学会での発表の推進

(イ) 共同研究の推進

ク 学部独自の施策

・ 学部、学科、コースの特色を活かしたイベント、コンペティションの開催

② 学生指導・学生生活支援の強化

ア アドバイザーを中心とした指導、支援の強化

- イ 展覧会など、学生の個人発表活動への支援の強化
- ③ 就職率 100%達成のための支援
 - ア コースの特色に合わせた就職支援の強化
 - イ キャリア教育科目を軸としたキャリア意識の醸成
- ④ 募集対策強化と入学定員の確保
 - ア 高校訪問の強化
 - イ 高校生にとって魅力あるオープンキャンパス企画の実施
- ⑤ 学部独自の施策
 - ア コース教員、非常勤講師との連携体制及び指導の強化による制作レベルの向上
 - イ 留学生の受入れ、指導を通じたグローバル化の推進
 - ウ 学部独自のキャリア教育テキストの作成

(3) 教育学部

- ① 教育・研究の充実
 - ア 人間力の強化
 - (ア) 1年生を中心とした共同プロジェクトの実施による協調性、問題解決力の向上
 - (イ) 教育インターンシップによる専門職業人としての自覚と実践力の育成
 - イ 専門的な力の強化
 - (ア) 1年次からの実習を通じた専門性の向上と技能の修得
 - (イ) ピアノ・体育・造形において身に付けるべき技能の修得
 - ウ 授業方法の充実
 - (ア) アクティブラーニング授業の推進
 - (イ) 実習における実践現場での学びと大学内での学びとの連関を強める授業の充実
 - エ 産官学連携の推進
 - (ア) 近隣の小学校や幼稚園、保育園（所）の児童や園児並びに教員、保育士などとの連携を深めるボランティア活動や研究会の充実
 - (イ) 学生主体のプロジェクトチームによる企画レベルの向上
 - オ 教員間の連携強化と研修体制の構築
 - (ア) 学部会議での学生に関する情報の定期的な共有
 - (イ) 学部運営にかかる業務の分掌体制の確立
 - カ 学園内連携の強化
 - ・ イベント運営、実習指導などにおける幼稚園、短期大学との連携の強化
 - キ 研究の推進
 - (ア) 実習校、実習園との共同研究の推進
 - (イ) こども教育研究所と連携したパートナーシップ事業の充実
 - ク 学部独自の施策

- ・ 教育人材育成センターでの教職教養講座の開講など教員免許取得支援の強化
- ② 学生指導・学生生活支援の強化
 - ア チューター制度による個別支援体制の充実
 - イ 連携協力校でのボランティア活動などの課外活動における指導の強化
- ③ 就職率 100%達成のための支援
 - ア 基礎学力の向上、教職教養の対策などによる教員採用試験合格への支援の強化
 - イ チューターと就職部の連携による就職活動の支援の強化
- ④ 募集対策強化と入学定員の確保
 - ア オープンキャンパスへの誘引の強化
 - イ 各教員による継続的な高校訪問の実施
- ⑤ 学部独自の施策
 - ・ 学生が主体となった学内プロジェクトの企画、実施

2. びわこ成蹊スポーツ大学

(1) スポーツ学部

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

(ア) PROG テストの活用による社会人基礎力の育成

(イ) フレッシュマンキャンプや雪上実習、水辺実習などを通じた団結力、忍耐力などの育成

イ 専門的な力の強化

(ア) コースの専門性に基づいた、特色ある教育の充実

(イ) 学外連携の充実による、社会での実践のなかで専門性を養う教育の展開

(ウ) 豊かな自然を学びのフィールドに見立てたスポーツ教育の充実

ウ 授業方法の充実

(ア) アクティブラーニング授業の推進

(イ) コースの専門性に基づいた教育課題の設定と、適正な評価の実施

エ 産官学連携の推進

(ア) 「COC+事業」への積極的な関与

(イ) 女性アスリート育成における連携の強化

(ウ) オリンピック、パラリンピック、滋賀国体への積極的な関与

オ 教員間連携・研修体制の構築

・ 教員間での授業研究会の実施、FD による教育・研究スキルの向上

カ 学園内連携の強化

(ア) 大阪成蹊大学、短期大学との教学改革への取組みにおける連携の強化

(イ) 大阪成蹊大学、短期大学との就職セミナーの共同開催

キ 研究の推進

(ア) アスリート支援に向けた実践研究の推進

(イ) 科学研究費補助金獲得に向けた研修会の開催、研究倫理体制の強化

② 学生指導・学生生活支援の強化

ア 教育相談会による保護者との連携の強化

イ クラブ顧問やコーチなど指導体制の強化による課外活動の活性化

③ 就職率 100%達成のための支援

ア 年次ごとのガイダンスによるキャリア意識の醸成

イ 教職協働での支援体制の構築と教員採用試験対策の拡充

④ 募集対策強化と入学定員の確保

ア 客員教授の講演など種々の企画、イベントの実施によるオープンキャンパスの充実

イ 高等学校との親疎度向上のための担当校制の推進

ウ 母校訪問の推進

⑤ 学部独自の施策

・ エリアコーディネーターとの連携による滋賀県内企業との関係強化

3. 大阪成蹊短期大学

(1) 生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科、幼児教育学科、観光学科、グローバルコミュニケーション学科、経営会計学科

① 教育・研究の充実

ア 人間力の強化

(ア) 成蹊基礎セミナーなど初年次教育科目でのリテラシーの育成、強化

(イ) PROG テスト、SPI テストによる教育成果の可視化や指導への活用

(ウ) アクティブラーニング授業の展開による主体性、協調性の育成

イ 専門的な力の強化

(ア) 学科ごとに定める重点資格取得に向けた支援の充実

(イ) 「Line English」の活用による学びの専門性に特化した実践的な英語教育の実施

(ウ) 専門性と直結した機関などとの連携による実践的な学びの充実

(エ) 修得した専門性を発揮するための行事、企画の充実

ウ 授業方法の充実

(ア) アクティブラーニング授業の推進

(イ) ラーニングコモンズとの連携による正課外学修の促進

(ウ) 学修状況のきめ細かな把握と個別指導の徹底

(エ) 半期ごとの授業評価アンケートの実施による授業方法の検証と改善の実施

(オ) 入学前の教育プログラムの充実

(カ) 卒業作品展や卒業研究発表会など学修成果を発揮する機会の充実

(キ) 専門性と直結する海外研修プログラムの充実

エ 産官学連携の推進

(ア) 社会のなかでの実践を通じて、実践力を伸ばす授業の充実

(イ) 職業理解を高めることのできる授業、インターンシップの拡充

(ウ) 社会の課題に対して専門性を活かして解決を図る授業の充実

オ 教員間連携・研修体制の構築

(ア) 専任教員、非常勤講師との定期的な学生情報の共有

(イ) FD、授業研究会、学科内勉強会などによる教育力の向上

カ 学園内連携の強化

(ア) 併設高校との高大連携授業の拡充

(イ) 学科、コース間の連携による共同イベントの開催

キ 研究の推進

(ア) 学科の専門分野における研究の推進

(イ) 学科ごとの共同研究の推進

(ウ) 学会発表及び論文投稿の活発化

(エ) 外部資金獲得に向けた研究の推進

② 学生指導、学生生活支援の強化

ア システム活用による出席状況の適時的な把握と個別指導の徹底

イ アドバイザー制度による個別指導体制の確立

ウ 学生支援課との連携による学生指導、支援体制の強化

エ サークル、ボランティア、地域行事など課外活動への参加の促進

③ 就職率 100%達成のための支援

ア 個々の就職希望状況及び就職活動状況の把握と情報共有の徹底

イ 就職部との連携による個別支援の強化

ウ SPI 対策などの就職試験対策の正課外支援の強化

エ キャリア教育系科目での社会人スキルの強化、キャリア意識の醸成

オ 学内での合同就職セミナーの充実、参加の促進

④ 募集対策強化と入学定員の確保

ア 高校訪問の強化

イ 高校生に魅力的なオープンキャンパス企画の実施

ウ イベントやトピックスなどの情報発信の強化

4. 大阪成蹊女子高等学校

(1) 教育の充実

① 基礎学力向上のための学校力の強化

ア 「使える英語」を身につける教育をコースの別なく強化し、各コースの特色を明確に

した平成 28 年度教育課程の編成

- イ 全教員の自己点検と生徒対象の授業アンケートの活用による教科指導力の改善
- ウ 全教科での研究授業、公開授業の実施回数の拡大
- ② 女子教育の更なる推進
 - ア キャリア教育科目「キャリアデザインα、β」での、女性として主体的な生き方と人間力の育成
 - イ キャリア教育科目「ホスピタリティ」での、他者尊重の姿勢と福祉マインドの育成
- ③ グローバルなキャリア教育の推進
 - ア 国際交流、海外研修事業の拡大と新規事業の実施
 - イ 全コース海外修学旅行への転換とクラス単位での実施
 - ウ 台湾金陵女子高級中学との新規連携と国際交流
- ④ 「使える英語力」の向上のための教育内容の強化
 - ア 新編成の教育課程の実施のための英語科教員のスキルアップと授業力の向上
 - イ 学园内英会話ルーム「English Cell」の課外活用の拡大（全コースでの実施、アセスメント結果に基づくレベル別クラスの検討）
 - ウ 発達段階に応じた新しい英語指導法の積極導入と活用（習熟度別授業、ALT を活用した少人数授業、ICT 活用授業などコースにより実施）
- ⑤ 学科・コース別の特色の充実
 - ア 美術科アート・イラスト・アニメーションコース：専門学科としての美術教育の充実と、円滑な運営の実施
 - イ キャリア特進コース：生徒数増に対応したクラス編成及びレーン制の検討と実施
 - ウ キャリア進学コース：生徒の多様な進路選択に合わせたレーン編成の見直し
- ⑥ 学园内の高大連携の充実
 - ア 「グローバルスタディ」「キャリアデザインβ」での、高大連携の積極実施
 - イ 教育研究支援センターとの連携による新しい取組みの検討、強化
- ⑦ 検定の合格率、資格の取得率の向上
 - ア 英語検定、漢字検定、秘書検定を 3 本柱とした各検定の合格率向上と実学教育の強化
 - ・大阪府学校経営推進事業で導入した検定試験対策書や PC ソフトを活用した学習
 - イ 検定、資格への動機付けの強化
 - (ア) キャリア科目、国語科、英語科での生徒への検定・資格への意識の啓発、動機付け
 - (イ) ホームページでの公開や生徒表彰など、合格者・取得者の顕彰の実施
- ⑧ ICT を活用した教育の充実
 - ア 情報教員の新規採用と、英語科、数学科などでの ICT を活用した研究授業の促進
 - イ プレゼンテーションソフトを活用した教員向け ICT 教育研修の充実
 - ウ 教科指導充実のための無線 LAN によるネット活用の充実及びテレビネットワークの新規活用

(2) 中途退学の防止と課外活動の活性化

① 中途退学防止のための施策

- ア サポートルーム担当者の拡充及び保健室担当者のスキルアップ
- イ 生徒へのカウンセリングマインドを醸成するための教育相談に関する教員研修会実施

② 課外活動の活性化に関する指導強化

- ア クラブ顧問の適正配置
- イ 技術指導が可能な学外人材の活用

(3) 教員の育成と管理体制の強化

① 評価育成システムを活用した教員のスキルアップ

- ア 新着任教員を対象とした評価育成システムの周知
- イ 授業評価アンケートの全科目実施の継続と個々の教科指導力向上に向けた活用

② 生徒指導力の改善

- ア SNSなどネット上のトラブルや危険防止のための教員研修の実施
- イ 生活指導部教員主導のもと、全教員による生活指導体制の確立

③ いじめ防止などのリスク管理

- ア 「いじめ防止基本方針」にもとづく新着任教員向け研修会の実施
- イ 障がい者差別解消法の趣旨を理解するための教員研修会の開催

(4) 国及び府からの研究指定

① 文部科学省スーパーグローバルハイスクール指定をめざした具体的な活動の実施

- ア グローバルリーダー育成に向けた英語教育の充実と実施
 - (ア) 「使える英語」を重点化した新教育課程の編成
 - (イ) 生徒のアクティビティを高める特色授業の実施
 - (ウ) 全国的アセスメントの導入、活用
 - (エ) 学園内英会話ルームの課外での活用促進
- イ 各種国際交流事業の立案と実施

② 科学研究費補助金奨励研究に向けた取組みの強化

(5) 内部進学率の向上

- ① 通常授業における高大連携の充実と機会の拡充
- ② 併設校向けオープンキャンパスでの企画の充実
- ③ 内部進学の有為さについて情報提供の強化

(6) 生徒募集強化のための施策

- ① 入学者の安定的確保に向けた施策の充実と新規募集広報戦略の確立

- ② 各コースでの特色を更に強化した募集活動の工夫
- ③ 中学生減少期に対応する中長期の募集戦略の策定

5. 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

(1) 保育活動における内容の充実

① 特色ある保育内容の充実

ア 心身の健全性をめざした保育内容の充実

(ア) 音楽、造形表現、運動などの遊びや自然体験学習の強化

(イ) 動植物と関わる環境の整備

(ウ) 指導講師の新規開拓、確保

イ 健康に関するプログラムの実施

・家庭を巻き込んだ食育の実施

ウ 安全プログラムの実施

(ア) 警察署、消防署による教職員の安全研修と避難訓練の徹底

(イ) 地震や津波発生など緊急時の安全確保、連絡体制の確立と保護者への周知

エ 人権に関する教育

・人権教育の実施

② 園内環境の充実

ア 事故防止のための環境整備

(ア) 紫外線、熱中症対策のための日陰の整備

(イ) 雨天時の廊下すべり対策

(ウ) 園庭遊具などの安全点検と整備

イ 教育内容充実のための整備

・三輪車、スクーター、砂場遊具など年齢に相応しい遊具の検討、手配

ウ 自然環境の充実

・動物や草花、野菜などに触れられる場所の設置

③ 教員の資質の向上

ア 教育課程、指導計画の検証

イ クラスごとでの保育参観形式の研修や実践事例研究など、園内研修の充実

ウ 大阪市保健センターと連携した研修の実施

(2) 学園内での効果的な連携の推進

① 大学・短期大学教員による連携プログラム

ア 大学教員によるスポーツ指導

イ 芸術学部教員による絵画、造形指導

ウ 栄養学科による PTA 料理講習会の実施

② 学生による連携プログラム

- ア 芸術学部主催の「動物と触れ合う写生会」への参加
- イ 栄養学科による修了記念会食での食事提供や食育指導
- ③ 学生への教育機会の提供
 - ア ボランティア部の受入れ
 - イ 教育インターンシップの受入れ
 - ウ 高等学校幼児教育コース体験学習の受入れ
 - エ 教育学部及び短期大学の教育実習生の受入れ
- (3) 地域連携の強化
 - ① 近隣教育機関との活動
 - ア 幼児教育相談の開催
 - イ 東井高野小学校への年長児の見学や井高野中学校ふれあい体験の受入れなど、近隣学校との活動
 - ② 地域施設、団体との活動
 - ア 資源ごみ回収の協力など自治会への参加
 - イ 介護福祉施設「エスペラル井高野」への慰問、「井高野地域敬老の集い」への参加
 - ウ 地域子育てサークルへの園庭貸出し
- (4) 良質な教員確保のための仕組みづくり
 - ① 教育学部、幼児教育学科との連携による意欲ある学生の早期確保
 - ② 労働条件の再検討
- (5) 募集の強化
 - ① 2歳児クラスの定員拡大
 - ア 年間40回の受入れ実施
 - イ 募集人数を120人に設定
 - ウ 未就園児向け行事の早期からの積極的な告知
 - ② 園児募集に関する情報の保護者への積極的な発信、コミュニケーション
 - ア 園児募集ポスター掲示、チラシ配布、ホームページ公開、一斉メール配信、ダイレクトメール発送
 - イ 入園説明会、給食試食会の実施